

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091100067
法人名	株式会社 ライフエイドジャパン
事業所名	グループホームライフエイド柏原ミルテ
所在地	福岡県福岡市南区柏原1丁目2番4号
自己評価作成日	平成22年9月23日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	財団法人 福岡県メディカルセンター		
所在地	福岡市博多区博多駅南2丁目9番30号		
訪問調査日	平成22年10月20日	評価結果確定日	平成22年11月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は、平均年齢91歳、平均介護度4.6と非常に高く活気は低迷気味ですが、入居者の力を生かし穏やかに生活して頂ける様心掛けています。重度の方が多いため入浴介助や、生活全般の安全に常に心がけ、事故防止に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

母体である病院は、地元のニーズに応え、地域に貢献したいとの思いでホームを設立した。ホームは全体的に明るく、清潔な印象を受ける。庭には野菜や花が植えられ、散歩や日光浴を楽しむこともでき、市街地にあるホームとは思えないほど自然がある。また、その中で暮らす利用者は穏やかな表情をしており、職員との良い関係が窺い知れる。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの見える場所に常に理念を掲示している。又、理念を共有し入居者様に安心して生活して頂ける様接しケアにとりくんでいる。	地域密着型の施設としての理念を管理者、職員全員で話し合い作りあげた。月に1回のミーティングにて理念についての取り組みを話し合ったり、ホームの真ん中に掲示したりして確認できるようにしている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議に町内会長、民生委員に参加して頂いている。また、ホーム主催の勉強会を町内の公民館で開催している。	地域の行事や清掃活動に職員が参加したり、町内会と共に企画した介護に関する勉強会を開催するなど地域の一員として交流を図っている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症を理解する為の勉強会を町内の公民館で開催している。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回、施設の活動報告を行い施設の現状について理解していただいている。また、年に1回評価についての報告も、行っている。	2ヶ月に1回開催し、地域や行政からの参加がある。ホームの現状報告、意見交換等を行っている。また、開催日には健康・介護相談会を実施し、運営推進会議を有効活用している。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に、市のグループホーム担当の方に参加して頂いて施設の現状を知っていただき今後に繋がるように取り組んでいる。	市の担当者や包括支援センターの職員が来訪して意見交換をしたり、地域からの相談がある場合は包括支援センターに橋渡しを行ったりしている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わない取り組みをスタッフが理解し、実施できる様研修会へ参加している。また、御家族にも理解していただける様に説明と同意を得る取り組みをしている。	身体拘束に関するマニュアルや外部研修の資料を基に、内部研修を行っている。ホームの玄関は自動ドアであるが、通りに面しており、利用者の安全確保の為施錠している。その旨家族には書面で同意を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は、高齢者虐待防止法等について研修会に参加し意識付け注意を払っている。		
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、職員は研修会や勉強会に参加し、認識している。必要性や質問等がある場合は、活用出来る様資料がある。	パンフレットや資料は、窓口においてあり、要望や問い合わせがあった場合は管理者が対応している。	パンフレットや資料はあるが、内部研修等の実施記録の確認が出来なかった。全職員に周知し、スキルアップを図れるよう、権利擁護も含め研修計画を立て実施されることを期待したい。
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約にいたるまでに見学や体験入所を重ね本人、家族の不安や疑問などあれば説明を行い同意の上締結している。		
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や御家族代表の方が意見や要望等運営推進会議等を利用し発言される機会がある。	意見箱設置やアンケートにて意見を聴き取っている。また、家族会を年に2回開催して意見交換の場を設けたり、家族に行事への参加を呼びかけたりするなど、ホームと話しあえる環境をつくっている。	
11	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	週1回の施設ミーティング等で意見やスキルアップを目指し研修会への参加を進め働きやすい環境づくりに努めている。	月に1回のミーティングにて職員の意見を聴き、法人の各部署の会議に取り上げることもある。また、管理者が職員に個別に聴き取りを行っている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々にスキルアップを目指し研修会への参加をすすめ働きやすい環境作りを努めている。		
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	新規職員の採用や全職員に対してもなら排除される事無く従事出来る様に配慮している。	採用に関しては特に条件は設けていない。採用後は本人の特技や能力を、行事や業務で活かせるよう配慮している。資格取得に向け勤務調整を行う等、本人のスキルアップにも取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	職員は入居者様が差別される事なく人格を尊重し人間としての尊厳が守られ安心して生活して頂ける様取り組んでいる	年に1回、地域の人権学習に参加している。ホーム内では常に言葉遣い等の接遇に気をつけている。	
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人一人のスキルアップを目指しレベルに応じた研修会に参加できるように進めている。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設見学を行った。今後も機会を持ち良い所は取り入れて行きたい。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	常に入居者の状況を把握し要望等があれば出来る事は実行するようにしている。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とは密にコミュニケーションを図り意向に沿えるよう努めている		
19		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様の残存機能を生かし出来ない部分に対して支援できる様努めている。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常的な会話の中にも人生の先輩としての教訓や生活の知恵など教わり癒し癒され頼り頼られる関係が築ける様心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族ともコミュニケーションを取りながら入居者が安心して暮らしていけるよう支援している。		
22	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	遠方に住み慣れた家をそのまま残されてきた入居者に対し御家族の協力の下でその場所に行き友達にも会われるように支援している。	利用者が知人や家族へ手紙を書く支援を行ったり、外出の際に本人の自宅の近くへ行く等、関係が途切れないよう心がけている。また、自宅で行事があれば帰宅して参加できるよう支援している。	
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1人1人の個性を把握し気の合う入居者同士が会話したり自由に過せるよう支援している。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方や契約が終了された方にもご本人様や御家族の方の近況を尋ねたり尋ねてこられたりという関係作りに努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思の疎通が可能な方は希望や意向に添うようにしているが意思の疎通が困難な方にも努力している。	利用者や家族から意向を聴き、本人の様子や日常生活の状態を把握に努め、思いを汲み取っている。	思いや意向などを聴き取っているが、文章にて記録されていない。アセスメントに内容を記録すると計画にも反映しやすいと思われ、今後の工夫が期待される。
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族等に尋ね、過去の生活歴を活かした暮らし方ができる様努めている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者全員把握している。精神的に重度の方は日々同じような生活にならざるを得ない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御家族の意向や本人の意向に添ってプランを作成している。	管理者、計画作成者が中心となり計画を立てている。主治医や全職員の意見等は、反映されていないものがある。また、長期、短期目標の日付が同日の計画書がある。	再度本人、家族からの聴き取りを行って、全職員と話し合い、主治医の意見をも取り入れた計画を立てられることを希望する。
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの内容を記載し検討事項があるときはスタッフ間で共有し生かしている。		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者の変化や御家族の意向をふまへサービスに対応出来る様にしている。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との連携を図れるよう努力しイベントなどの際は参加の声掛けを行っている。		
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院との連携を密にし、随時診察、治療を受けられる体制にしている。	協力医の往診が2週間に1回あり、利用者の状態把握やホームとの連携を図っている。他科受診は家族の協力を得ている。また、他科の医師の往診も可能となっており、利用者は安心して暮らしている。	
33		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご利用者の体調に常に留意し毎日バイタルチェックを行い異常のある時は主治医やナースに報告し受診が必要な時は受診や往診を受けていただくようにしている。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	協力病院等との情報を共有しご利用者に安心して治療に専念していただき早期退院出来る様目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	御家族等と事前に話し合い、ご利用者、御家族の意向に沿うようにしている。	重度化や看取りに関する指針があり、早い段階で家族とも話し合って同意書を交わし、終末期の介護を確認している。職員も勉強会を開き共有している。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、ミーティング等で周知徹底を計っている。スタッフは急変時に備えシュミレーションを行っている。		
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日を決め職員の訓練を行っている。運営推進会議で地域の協力を求めている。	マニュアルを準備し、夜間想定を含め、年に2回避難訓練を実施し、通報の確認等は週に1回行っている。地域との連携等は運営推進会議で取り上げる予定となっている。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様一人ひとりに合った声掛けや対応をする努力をしている。	言葉遣い等、接遇面やプライバシーの確保には心がけているが、一部、利用者への言葉かけやトイレ介助の際にプライバシーを損ねる場面が見受けられた。	難聴者や排泄時の介助の必要な方等へのプライバシーの確保について、再度話し合い、対応していただけるよう希望する。
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや意向を聞き取り、その際利用者様や御家族に思いやご希望を聞くようにしている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	細かな声掛け、様子を伺う等その人らしい暮らしができる様努力している。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の洗面や外出やイベント時の服などお気に入りの物を身に付けていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	重度の方が多く一緒に準備などを行う事は難しい為、なるべくおやつを手作りしたり、食べやすさの工夫をしている。	重度化が進み、調理や配膳をできる方が少なくなっているが、下ごしらえやおやつ作りを手伝うこともある。食事時間は1～2人の職員が介助を行い、一緒に食事をする職員がいない状況である。	利用者と職員と一緒に食事をする事で、変化や意向を確認し、また、家庭のような雰囲気になるよう、職員が1人でも共に食事することが望まれる。
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方にあった形（トロミ、ミキサー）で提供し、水分摂取が少ない方は毎日の水分量を記録し、飲みやすいのみ物等で摂取していただけるよう工夫している。		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	清潔を保つ為に毎食後行っているご本人に応じた歯ブラシやスポンジを用いて対応している。		
45	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	パターンシートを活用し立位出来る方は時間を見てトイレ誘導、オムツ使用の方はパット交換にて介助をおこなっている。	利用者それぞれのチェックシートにてパターンを確認し、個々に合わせた支援を行っている。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日牛乳など摂取して頂き、腹部マッサージなど施行。それでも排泄が無ければドクターの指示を仰ぎ、下剤の調整をして対応している。		
47	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	重度化している方が多く、意思の疎通などが困難な方もおられる為こちらで曜日を決めスタッフも1人～2人介助にて対応している。	重度化の為、職員が多い午前中に時間を設定し入浴してもらっているが、希望があれば時間の変更は可能である。また、毎日入浴できる体制を取っている。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様一人ひとりの習慣を見計らい、声掛けにて午睡や就寝介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の用量用法など処方箋など見て確認し服薬管理を行っている。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	年間を通して行事を作り、バスハイクや運動会などして過していただいたり出来る範囲内で家事や映画・音楽鑑賞など毎日何らかの形で過していただいている。		
51	(21)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	御家族の協力を得て地域の美容室へ外出されたり、近所の商店へスタッフ同行にて買物、外出等されている。又、今年はじめ行事の中で電車等利用し外出支援を行った。	バスハイク等で外出の機会はあるが、日常的に戸外を散歩したり、庭に出ることは少ない。	行事としての外出の支援は良く取り組んでいるが、日常の短時間でも戸外に出ることは利用者にとって楽しみの一つではないだろうか。庭に出て季節を感じ気分転換の場を作られることを希望する。
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自身で管理できる方は小額所持たれている。それ以外の方は、ホームで預かりそこから買物等必要に応じて使えるよう支援している。		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人より希望のある時は、スタッフ見守りで電話されたり、手紙（年賀状等）を書ける方はやり取りを行っておられる。		
54	(22)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や生き物を取り入れ、利用者様に心地よい生活環境の中で過して頂けるように配慮している。	ホーム内は清潔感があり、壁やテーブルの上には季節のものが置かれ、居心地のよい環境である。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりの生活を見ながら適切な席になる様工夫している。また、1人で新聞を読まれたり等一人の時間を作れるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56	(23)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御家族と相談しながら馴染みのものや家具を使用し快適に暮らしていただくよう工夫している。	使い慣れたタンスや椅子等を持ち込み、馴染みのある環境を作っている。また、家族からの贈り物を部屋に飾り、本人らしい部屋で過ごせるよう工夫している。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物はバリアフリーで、動ける方も車椅子の方も不自由なく生活出来る様にしている。また、トイレトペーパーホルダーを付け、1人で紙を交換出来る様にしたり等それぞれに合わせて工夫を行っている。		